

沈下橋の原型「早瀬橋」

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。
今回は、川と共生する姿から、四万十川に架かる沈下橋の原型といわれる早瀬橋をご紹介します。

四万十川の第2支流・北川が流れる東津野村芳生野奈路(よしゅうのなる)地区には、「早瀬橋」という素朴な木橋があります。これは川を挟んで向かい側の下野地区へ渡るための橋で、神社の参拝や農作業、地区の交流に欠かせない生活道として利用されています。

「早瀬橋」は全長約25m、幅60cm。橋の高さは水面から1.2m。石を積み上げた台座の上に丸太を乗せたもので、橋の両側がワイヤーで岸に繋がれています。大雨で増水した時には丸太が落ちることがありますが、水が引いた後ワイヤーをたぐり寄せ、元通りにできる仕組みとなっています。

「雨が多い地域で、その対策として先人達が生み出したのが「早瀬橋」。定かではありませんが明治時代に誕生したと伝えられており、昔から奈路地区と下野地区の双方が当番制で管理しています」とは、奈路地区の橋当番のひとりの豊田庄二さん。(東津野村役場勤務; 写真上4点撮影も)

残念ながら、今年8月の大雨により「早瀬橋」は流失してしまいました。しかし、秋の神祭に間に合うようにと、11月架け替え作業を実施。作業は、11月8日に村の寄付で村有林の杉を6本伐採し、翌9日に村内の製材所で長さ・形を調整。そして10日に、両地区民が協力して4時間ほどの作業を経て完了。昭和58年以來の掛け替えとなりました。「早瀬の一本橋」は、今後もなくてはならない橋として渡られ続けます。

*平成10年には、歌人で四万十大使の俵万智さんが取材に訪れています。

(豊田さんの短歌)

四万十川の 神楽囃子にさそわれて
早瀬の橋の 初渡り

Topics

カヌー愛好家の作家、野田知佑さんの絵本
「ささ舟、四万十川に行く」を描く
イラストレーター藤岡政夫さん原画展

■期間:1/7(火)まで開催
■会場:四万十川学遊館
※詳しくは、中村市トンボ自然公園
0880-37-4111まで

